

## IKGの旅館経営再生塾

### 第222回 旅館の伝統について考える

榎飯島綜研 代表取締役社長 孫田 猛

「伝統とは型を守るということではない。その精神を守るものである。」

ある方から聞いた言葉である。

旅館における営業スタイルの変遷を見ると、この「型」に捉われたり、「型」からぬけだせなかったりした結果、経営悪化を招いているケースが多い。

前者の場合は、型と精神とを履き違えているのではないかという懸念がある。つまり現時点での自分の旅館のスタイルが、もっとも好ましいという経営者の思いが根底にあるため、それが顧客に認められなくなってしまった場合、結果としてビジネスが成り立たなくなってしまうというものである。一方後者についてはこの「型」は今の顧客には受け入れられないということが分かっているながらも、結果として変化に対応していくことができず、ずるずると経営悪化に歯止めが利かないという状況にある。

今、旅館という営業形態で成功しているビジネスモデルといえば、他業種からの参入による大衆低価格チェーンの買収戦略と、ごく一部の個性的な小規模旅館のみだという意見を聞く。

これについては財務の裏づけがあつてのことではないので明確なことは言えないが、これからの旅館経営は、果たしてこの路線しかないのかということである。

最近の前者のスタイルについては、むしろ旅館業独特の伝統・仕組みやしがらみを一切リセットし、単純に顧客に受け入れやすいテーマパークの要素を旅館版にアレンジしたものである。

ビジネスは結果のみが評価されるのであるから、それまでの過程や、結果としてビジネスとしてなりたない方法はだめなのである。

だが、あえて長い間培ってきた宿の伝統(その精神)を簡単に捨ててしまっているものだろうか？ここには何代にもわたって培ってきた旅館業の誇りがある。だから、ここで是非とも実現させなければならないのは、宿の伝統を受け継いだビジネスモデルの確立である。

宿の伝統精神に基づいた現代の型を自ら創造し、その結果を広く告知する。このことが今、旅館業界を再生させる根本的なエネルギーとなる。

代々受け継いだ旅館の精神を基に、新たな型をつくっていかうではないか。

<http://ik-g.jp>

[magota@ik-g.jp](mailto:magota@ik-g.jp)